

## 後援会総会へ多数が参加 茨城大学人文学部

茨城大学人文学部の後援会総会が20日午後、学部内で開かれた。保護者のほか



教職員、学生らが多数参加、新年度の予算などを承認し、新役員を選出した。後半では、後援会から資金支援を得ている各種プロジェクトが後援会にその活動を披露し、予定より30分延長して終了した。

総会後には、併設された保護者相談会へ約20人の保護者が訪れ、待機していた教員が就職や進路、海外留学の相談などに乗っていた。

総会の会場となった講義棟10番教室は、開始の30分前から保護者が集まり出し、開始時には、300人程度が収容できる座席の半分程度が埋まった。早めに来場した保護者のため、今年から国際交流のビデオを流して、視聴できるようにした。

冒頭に予定していた後援会の会長の挨拶は、会長の欠席で省かれ、佐川人文学部長の挨拶で総会は、実質スタート。議長選出後は、平成26年度事業会計が報告され、拍手で了承、平成27年度予算も同じように了承された。



これに続き、学生委員会の古賀委員長により、恒例の3月に

卒業した学生の就職状況の説明があった。平成26年度の就職率の実績は、前年度より7ポイント高い92.8%。人文コミュニケーション学科が、マスコミ業界やIT産業への就職で強みをみせるのと対照的に、人文社会科学科は、公務員や金融業界の優位が報告された。



プログラム後半の学生の教育・研究活動の紹介では、①指定文化財集中曝涼(虫干し)②地域課題の総合的探究プログラム「地域課題特論」学外実習③PBL授業プロジェクト実習「さとみあい」④国際交流・海外留学⑤経済学・経営学コース

事業見学会・学外視察—の5つについて、それぞれにかかわった学生が紹介。後援会に対する資金支援に対し、謝礼が伝えられた。(以上)

